

下松自治区 町政懇談会 会議録

1. 開催日時

平成28年11月24日（木） 午後1時30分～3時15分

2. 対象地区・団体

下松自治区

3. 代表者・参加者

小野木洋一 下松自治区長、参加者計7人

4. 開催会場

下松集会所

5. 町出席者

町長 伊藤 勝、副町長 伊藤要一郎、企画情報課長 大竹 享、建設水道課長 成田信幸、町民税務課長 五十嵐博文、企画情報課情報政策係長 佐藤泰久

6. 自治区長あいさつ 小野木洋一 下松自治区長

皆様にはお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。町政懇談会ということで、町政について直接、話し合いができるいい機会であると思っておりますので、また、当自治区で抱える課題もいろいろございますので、いい意見交換ができればと考えております。よろしくお願いたします。

7. 町長あいさつ及び町政方針説明

まず今年度、人口減少や高齢化により、雪処理の担い手が不足し、住民生活に支障を来たす地域が増えていることから、冬期間の安全安心な暮らしを確保するため、地域の実情に即した除排雪体制や利雪を含めた冬の快適な生活環境づくりなどを盛り込む雪対策基本計画を策定していることを説明。

続いて、人口減少・地域活性化対策の地方創生では、「町の資源の活用」「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」「交流人口の拡大」を三つの柱に、活力ある町づくりに取り組む考えで、「町の資源の活用」では、菌床きのこ栽培の拡大による大規模産地化や、町の森林資源を活用した菌床用オガ粉や、チップ・ペレットといった木質バイオマス燃料の生産体制整備などを検討する森林資源活用型新産業づくり計画の策定を進めており、こうした取り組みにより、仕事を創出し、雇用を拡大することが町の産業にとって重要であることを説明。

二つ目の「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」では、結婚祝金10万円の支給をはじめ、保育所に2人以上入所している場合の2人目以降の保育料無料化、さらに、今年度から出産祝金を第1子目からの支給に拡充するとともに、来年4月の開園に向け認定こども園を整備していることなどを説明。三点目の「交流人口の拡大」では、多くの人に西会津に来てもらう拠点づくりの取り組みである国際芸術村事業をはじめ、さゆり公園周辺の運動、宿泊施設の有効活用によるさらなる誘客、また、地域にある資源を活用した出戸・岩屋まつりや、極入・大聖歡喜天祭礼など地域づくりへの支援、さらに、地域おこし協力隊の活動等による誘客、移住・定住推進などについて説明。

最後に、生活環境整備では、町縦貫道路の整備や、国道49号睦合地区からのトンネル化による代替路「会津防災事業」の早期着工に向けた町の取り組みなどを説明。

8. 事業説明

家庭ごみの分け方・出し方について、資料により五十嵐町民税務課長が説明。

9. 地域課題等について

自治区から事前に提出された地域課題等に対して、それぞれ担当課長より回答。内容は別紙のとおり。

10. 意見交換等

[質問等]

燃えるごみは下松の場合、いま月曜と土曜に収集していますが、冬期間はどのようなのでしょうか。

[町]

冬期間の燃えるごみの収集は、月曜日だけとなります。冬期間は、燃えるごみの収集回数を調整し、また、ペットボトルや空き缶については、冬期間収集しませんので保管していただき、春先に出してもらおうということで、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

[質問等]

昨年のように雪が少ない場合、4月前に、早めに収集回数を増やす、あるいは、ペットボトルなどの回収を始めるといったような対応はするのでしょうか。

[町]

町では収集を業者に委託しており、委託業務の計画に沿って収集を行っている関係で、4月前に早めるということはできません。このため通常の収集に戻るのは4月からとなります。

[質問等]

防災行政無線について、私は、集落の下の方に家があるんですが、反響して全然聞こえない状況です。ゆっくり話していても聞き取れません。外に出ても聞こえません。道目に近い家はそれほどではないと思いますが、家に来て現状を確認してもらいたいと思います。

[町]

現在の防災行政無線は導入以来、25年以上が経過しています。いまと同じような聞こえづらいので直してほしいと自治区から要請があった場合は、スピーカーの向きを変えたり、音量を上げたりという方法で調整を行っています。今後、町では防災行政無線をアナログからデジタルに切り替える必要があり、いま考えているのは、宅内で放送内容を聞くことができるような機器を取り付ける方法など、事業費を含めて検討を実施しているところで、来年から整備を始めますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思います。

[質問等]

防災行政無線の難聴対策として、一番いいのは、ケーブルテレビからのスピーカーで放送してもらおう方法が一番だと思います。平常時は防災行政無線から聞こえていても、冬期間の雪囲いや積雪によって、聞こえなくなります。ですから、各家庭の中に、スピーカーを一つ付けて、それで聞こえるようにすれば、一番いいと思います。

[町]

来年度からのデジタル化の際に、例えば、現状では聞こえづらい下松集落の川口よりに1

基、屋外スピーカーを設置することが可能かどうか検討していきたいと考えています。

このほか、ケーブルテレビを活用する方法として、音声告知というものがあります。防災行政無線は、言葉どおり無線ですが、ケーブルテレビは有線です。いまは無線を重視しているため、無線機を使った音声告知ということになりますが、前に町で導入し、使っていたことがある有線で各家庭にお知らせする音声告知もあります。どちらがいいのかこれから検討していく考えです。テレビをつけていることが前提になりますが、映像で出す方法と、またテレビをつけていなくても音声で流す方法とがあります。

[質問等]

デマンドバスに関して、例えば、当日の朝に乗車予約して、診療所にかかって、早く終わった場合、帰りの予約もしているため、その時間まで待っていなければならないというのは非常に不便ではないでしょうか。

[町]

帰りの便について、その日の都合によって予約したバスに乗車しないこととした場合、あるいは、予約より遅い便に変更したいといった場合は、1時間前まで予約が可能で、取り消しについても受け付けています。デマンドバスは予約の状況により運行ルートを決めていますので、電話予約をお願いします。

[質問等]

道路に関して質問します。下松から川口への川口線ですが、向山地内で何年もの間、通行止めになっています。その通行止めのバリケード設置場所から、戻ってくる車両が多い状況です。川口線の道路状況はどのようになっているのでしょうか。

[町]

下松集落から先の状況については、通れないことはありませんが、危険であるため、通行止めをしています。路面状態が悪く、現在、通行は発電所の維持管理を行う関係者に限定しています。廃道にはしていませんが、それに近い状態で、車両の通行は見合わせてもらっています。国道459号がありますので、将来的には廃道ということも念頭においています。

[質問等]

土日曜日は、通行止めの場所から戻る車両が必ず何台かあります。手前の新橋のところに通行止めの看板設置をお願いします。

[町]

分かりました。対応します。

[質問等]

町道道目川口線の沢田の拡幅に関してですが、拡幅は難しくないと思えますが。

[町]

沢田は、箱型コンクリートのボックスカルバートにしているため、道路を広げるにはボックスカルバートを入れ替えるしかないため難しい状況です。

[質問等]

下松集落内に道路を新設するための良い方法はないでしょうか。玉木氏、岡野義弘氏宅の

ところを真っ直ぐに、集会所を取り壊したところまで、この脇を通っていく道路が欲しいという要望があります。

[町]

まず集落で、関係する土地所有者の用地提供に係る同意を得た上で、集落で意見をまとめてもらって、町に道路整備の陳情をあげていただきたいと思います。

[質問等]

この場合、道路工事着工となれば順番があって、何年後になるということなのでしょうか。

[町]

陳情を受けた際に、町の具体的な対応について説明させてもらいたいと思います。計画などについて。計画してから、ほぼ3年ぐらいで整備しています。移転がからむと時間がかかりますが。自治区で意見をまとめてもらうことがまず必要になります。自治区で検討してみてください。

[質問等]

どこの集落も同じだと思いますが、高齢化により道路の草刈りなどの維持管理が難しくなっています。町で全部やってくださいというわけにもいきません。

例えば交流人口の拡大の中で、草刈りや堰上げのボランティア活動などを検討し、お金ではなく、ミネラル野菜やコメなどをお返しするというような方法を検討してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

[町]

道路の草刈りなどの維持管理については、高齢化等により、ほかの自治区からも同じような課題が出されています。

今後の道路維持管理体制をどうすべきか、町として考える必要があります。機械化も一つの方法で、検討していく必要があると思っています。草刈りをお願いする人がいなくなってきているのが実態で苦慮しています。シルバー人材センターにすべてお願いすることは難しいですし、ボランティアも危険なところはできないです。またボランティアの場合、毎年継続性の確保が難しいと思います。

機械化できるところは機械化していくとか、あるいは、町で臨時の専門作業員を雇用していく方法などを含めながら何とか維持管理を行っていきたいと思っています。

[質問等]

ここを降りていくと、元軌道のところに出るわけです。水土里の事業で舗装しました。ここを除雪路線にしてもらうことはできないのでしょうか。現在は、春の余力で除雪している状況です。代田橋まで舗装になっていて3mはあるので、除雪してもらえると万一の際、循環することができるようになります。

[町]

除雪路線については、基本的に、まず主要な道路を除雪し、各家々まで行けるように対応しています。下松の場合も、この集会所までの道路など主要な幹線を除雪路線としています。要望のあった路線は、幅員が3mあると思いますが、通常を除雪路線とすることは難しいため、余力があるときに対応しています。雪が落ち着いて除雪車両に余裕があるときに、状況を見て対応するようにしたいと思います。